

詳しくはこちら
[QRコード](#)

今日、お客様に
ご提案するプランは一
60年の経験から
導かれる将来予測に
基づいています。

Banking is our craft.

UBS SuMi TRUST
UBS SuMi TRUSTは日本におけるウェルス・マネジメント事業のブランドです。

©UBS 2025. UBSは全ての権利を留保します。

人生も、お金も、健やかに。

信託には、幸せの数だけ答えがある。

FINANCIAL WELL-BEING

© シンジル & タクセル

託された未来をひらく
三井住友トラストグループ

三井住友信託銀行

UBS x 三井住友信託銀行 presents



第19回ショパン国際ピアノ・コンクール 2025 優勝者リサイタル

The 19th International Fryderyk Chopin Piano Competition 2025 Winner's Recital

エリック・ルー
ピアノ・リサイタル
Eric Lu Piano Recital

2025年12月15日(月) 19:00開演
東京オペラシティコンサートホール

7:00p.m., Monday, December 15, 2025,
at Tokyo Opera City Concert Hall

2025年12月16日(火) 19:00開演
東京芸術劇場コンサートホール

7:00p.m., Tuesday, December 16, 2025,
at Tokyo Metropolitan Theatre Concert Hall

主 催：ジャパン・アーツ

特別協賛：UBS証券株式会社 UBSアセット・マネジメント株式会社

UBS SuMi TRUSTウェルス・マネジメント株式会社／三井住友信託銀行株式会社

後 援：駐日ポーランド共和国大使館／ポーランド広報文化センター



UBS





ご挨拶

親愛なる皆様

本年、ポーランドの首都ワルシャワで開催された第19回フリデリク・ショパン国際ピアノコンクールは、米国のエリック・ルーを偉大なる優勝者に迎え、10月23日にその幕を閉じました。第17回大会にも出場し第4位に入賞したルー氏は、10年後再びこのコンクールの舞台に戻り、見事金メダルを勝ち得るという偉業を成し遂げました。

2027年に創設から100周年を迎えるショパンコンクールは、単なる競技会ではなく、何よりも我が国がほこる芸術家であるショパンの美しい音楽をめぐる祭典であり、5年一度、音楽的エネルギーと情熱をもってこの偉大な作曲家の遺産を見事に解釈し聴かせてくれるピアニストたちが世界中から集うというかけがえのない場であります。

エリック・ルーは、その感性と成熟度、そして技術的な完璧さをもって、ショパンの普遍的かつ時代を超越した作品を継承するにふさわしい人物であることを証明しました。

12月15日に東京オペラシティコンサートホールで、また翌16日に東京芸術劇場コンサートホールで開催されるリサイタルにおいて、彼のピアノ演奏の粹を日本の聴衆の皆さんにご堪能いただけることを大変嬉しく思います。

この優勝者リサイタル、ならびに来年1月には第19回ショパン国際ピアノ・コンクール入賞者コンサートを企画主催してくださるジャパン・アーツの皆さんに、改めて感謝申し上げます。

このリサイタルが、ショパンの音楽を敬愛する日本の聴衆の皆様にとって忘れがたい体験となり、ポーランドと日本を結ぶ文化の架け橋としての役割を果たすものとなることを確信しております。本日の夕べが皆様にとって心搖さぶられる素晴らしい芸術体験となりますよう願っています。

駐日ポーランド共和国大使
パヴェウ・ミレフスキ

オール・ショパン・プログラム All Chopin Program

ノクターン第7番 嬰ハ短調 Op.27-1 Nocturne No.7 in C-sharp minor, Op.27-1

ポロネーズ第5番 嬉ヘ短調 Op.44 Polonaise No.5 in F-sharp minor, Op.44

舟歌 嬉ヘ長調 Op.60 Barcarolle in F-sharp major, Op.60

ポロネーズ第7番 変イ長調 Op.61「幻想」 Polonaise No.7 in A-flat major, Op.61 “Polonaise-fantaisie”

* * *

ポロネーズ第9番 変口長調 Op.71-2「遺作」 Polonaise No.9 in B-flat major, Op.71-2

ピアノ・ソナタ第3番 口短調 Op.58 Piano Sonata No.3 in B minor, Op.58

12/15のみ

第1楽章：アレグロ・マエストoso	1st Mov.: Allegro maestoso
第2楽章：スケルツォ、モルト・ヴィヴィアーチェ	2nd Mov.: Scherzo. Molto vivace
第3楽章：ラルゴ	3rd Mov.: Largo
第4楽章：フィナーレ、プレスト・ノン・タント	4th Mov.: Finale. Presto non tanto

ピアノ・ソナタ第2番 変口短調 Op.35「葬送」 Piano Sonata No.2 in B-flat minor, Op.35

12/16のみ

第1楽章：グラーヴェードッピオ・モヴィメント	1st Mov.: Grave - Doppio movimento
第2楽章：スケルツォ	2nd Mov.: Scherzo
第3楽章：葬送行進曲、レント	3rd Mov.: Marche funebre. Lento
第4楽章：フィナーレ、プレスト	4th Mov.: Finale. Presto



エリック・ルー (ピアノ)

Eric Lu, Piano [アメリカ]

第19回ショパン国際ピアノ・コンクール 第1位

1997年12月15日生まれ。カーティス音楽院卒業。2018年、リーズ国際ピアノコンクール優勝。これまでに、ボストン交響楽団、ロンドン交響楽団、シカゴ交響楽団、東京交響楽団、フィンランド放送交響楽団、上海交響楽団、そしてロサンゼルス・フィルハーモニック、オスロ・フィルハーモニー管弦楽団、ルクセンブルク・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団、ワルシャワ・フィルハーモニー管弦楽団他と共に。ケルン・フィルハーモニー、クイーン・エリザベス・ホール、エルプ・フィルハーモニー、コンセルトヘボウ、ウイグモアホール、ディヴィス・シンフォニー・ホール、ワルシャワ・フィルハーモニー、ソウル・アーツセンター、ブリュッセルのパレ・デ・ボザールなどでリサイタルを行っている。ラ・ロック・ダンテロン国際ピアノ音楽祭、ワルシャワ、アスペン、ロサンゼルス、ドゥシュニキ、そしてバルデモーサの音楽祭にも出演。ワーナー・クラシックスより、シーベルト、ショパン、シューマンにブラームスの作品を収録した2作のアルバムをリリースしている。2026年1月には新譜「シーベルト: 即興曲集 Op.90 & 142」を発売予定。

Born on 15 December 1997. He is a graduate of the Curtis Institute. He won first prize in the Leeds International Piano Competition in 2018. He has performed with the Boston, London, Chicago, Tokyo, Finnish Radio and Shanghai symphony orchestras, as well as the Los Angeles, Oslo, Luxembourg, Stockholm and Warsaw philharmonic orchestras, among others. He has given recitals at the Kölner Philharmonie, Queen Elizabeth Hall, Elbphilharmonie, Concertgebouw, Wigmore Hall, Davies Symphony Hall, Warsaw Philharmonic, Seoul Arts Centre and Bozar Brussels. He has appeared at festivals in La Roque d'Anthéron, Warsaw, Aspen, Los Angeles, Duszniki and Valldemossa. He has released two albums on the Warner Classics label, recording works by Schubert, Chopin, Schumann and Brahms. In January 2026, a new album "Schubert: Impromptus Opus 90 & 142" will be released.

道下京子 (音楽評論家)
Kyoko Michishita

2025年10月3日から20日まで、ポーランドで第19回ショパン国際ピアノコンクールが開催された。個性際立つショパン演奏が多く聴かれた前回と比べ、今回は演奏技巧と表現力の両面で4年前を凌駕するハイ・レヴェルの競演が繰り広げられた。

今回のショパン・コンクールで優勝を飾ったのは、前々回のコンクールで第4位に入賞したエリック・ルーである。彼は、2018年のリーズ国際ピアノコンクールで優勝し、すでにプロとして世界の檻舞台で活躍している。コンクール前から優勝候補にあがっていたが、実際にすべてのラウンドでクオリティの高い演奏を示した。重みを帯びた艶やかな音でメロディをたっぷりと歌い上げ、特に作曲家の心の光と影を深く刻み込んだ表現が記憶に残っている。

当夜のプログラムには、実際にワルシャワのコンクールで演奏された曲目が並ぶ。

フレデリック・ショパン(1810~49)は、19世紀前期のポーランドを代表する作曲家。幼少のころから音楽に关心を示し、チェコ出身のヴォイチェフ・ジヴィニーにピアノを師事。1822年に彼とのピアノのレッスンを終えると、ワルシャワ音楽院の院長ユゼフ・エルスネルにプライベートで作曲を学ぶ。その後、16歳でワルシャワ音楽院に入学し、19歳の夏まで在籍した。

1830年11月、ショパンはポーランドを離れ、ウィーンでの滞在を経て、翌年10月からフランスを活動の拠点とする。1836年12月、パリで作家ジョルジュ・サンドと出会う。やがて、二人は恋愛関係となり、1838年11月から3か月間マヨルカ島で過ごした。フランスに戻ったのち、季節の良い時期にはノアンのサンドの別荘で彼は作曲にいそしだ。二人の関係は1847年まで続いたが、その後、ショパンは39歳の短い生涯を閉じた。

本日演奏されるのは、《ポロネーズ第9番》をのぞき、ショパンが後半生を過ごしたフランス時代の創作である。

フレデリック・ショパン

ノクターン第7番 嬰ハ短調 Op.27-1

ショパンは、学生時代にジョン・フィールドのノクターンと出会い、深い感銘を受けた。Op.27の2曲のノクターン(第7番・第8番)は1833~36年作曲。淡く夢想的な雰囲気の漂うフィールドのノクターンのスタイルから離れ、ショパンはこれらの創作のなかで高度に洗練された独自の表現を追求した。第7番は、彼のノクターンのなかでも最も劇的な性格を持つ。六連符の分散和音が紡ぎ出す和声の繊細な変化は、音楽の流れにしなやかなエネルギーをもたらす。中間部におけるほの暗い情感は、ベートーヴェンを連想させる。

ポロネーズ第5番 嬉ヘ短調 Op.44

ポロネーズは、ポーランドの宮廷舞踊。音楽作品としてのポロネーズは、3拍子の勇壮なリズムを特徴としている。

1841年作曲の《ポロネーズ第5番》は、ショパンの心身ともに充実した時期の創作。このポロネーズは規模が大きく、ドラマティックな性格をもつ。導入に続き、ポロネーズの部分は、3つの主題からなる。そしてマズルカの樂想ののち、嬉ヘ短調のポロネーズ部が再現される。

舟歌 嬰へ長調 Op.60

舟歌(バルカラーレ)は、ヴェネツィアの船漕ぎの歌に由来する。ショパンは、1845~46年に《舟歌》を作曲。主部では、低音部の揺らめくような分散和音の上で、メロディが伸びやかに歌い上げられる。中間部はイ長調に転じ、左手によるゆれ動くようなモティーフの反復とともに、右手は重音を含むメロディを優美に奏でる。繊細な装飾音や和声の大胆な変化は、音楽に深い陰影をもたらしている。

ポロネーズ第7番 変イ長調 Op.61「幻想」

楽譜に記されたこの曲のタイトルは、「ポロネーズ=ファンタジー」。《舟歌》とほぼ同時期の作曲で、ショパンが書き上げた最後のポロネーズである。彼は、ポーランドの民謡や舞踊の音楽を自身の創作に積極的に取り入れた。彼にとって、ポロネーズはポーランドの栄光の象徴である。

この作品は、夢想的な前奏で始まり、ポロネーズ・リズムが高らかに打ち鳴らされたのち、主部に入っていく。内声部にポロネーズ・リズムを交えた変イ長調の部分、変ロ長調の回想的な楽想、そしてロ長調の優美な部分を作品の軸とし、音楽は自由に展開していく。

ポロネーズ第9番 変ロ長調 Op.71-2「遺作」

ショパンは、こどものころからポロネーズの作曲を手掛けていた。彼の最初の作品は、7歳の時に書かれた《ポロネーズト短調》。Op.71の3曲のポロネーズもワルシャワ時代の創作であるが、彼の生前には出版されなかった。現在、版によって「第7番」、「第8番」、「第9番」と番号が与えられている。

本日演奏される《ポロネーズ第9番》は、ト短調の中間部をはさむ三部形式で書かれている。全体的に、勇壮さよりも典雅な雰囲気を湛え、メロディの細やかな息遣いや装飾音などにも宫廷舞踊の趣が感じられる。作品は、ワルシャワ音楽院在籍中の1828年に作曲された。

ピアノ・ソナタ第3番 口短調 Op.58

12/15のみ

ショパンは、3曲のピアノ・ソナタを世に残している。《ピアノ・ソナタ第3番》は、1844年に書き上げられた。堂々とした風格を持つこの作品には、対位法などさまざまな表現手法が緻密に用いられている。

第1楽章(口短調)は、威厳に満ちた第1主題と甘美な第2主題を軸としたソナタ形式。第2楽章(変ホ長調)は、コラールのような優美な中間部をはさむスケルツォ。瞑想的な趣の第3楽章(口長調)に続き、第4楽章(口短調)「フィナーレ」は雄渾なロンド。

ピアノ・ソナタ第2番 変ロ短調 Op.35「葬送」

12/16のみ

ショパンは、1837年に《葬送行進曲》を作曲し、それをのちに《ピアノ・ソナタ第2番》の第3楽章に置いた。作品全体は、1839年に完成した。

第1楽章(変ロ短調)はソナタ形式であるが、その再現部は第2主題で始まる。第2楽章(変ホ短調)はスケルツォ。第3楽章(変ロ短調)は「葬送行進曲」。第4楽章(変ロ短調)では、三連符でつづられたユニゾンのフレーズが一陣の風のように奏でられる。

【アーティストサポート】へ、多くの皆様からお気持ちをお寄せいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

これからも引き続き変わらぬご支援をどうぞよろしくお願ひします。

アーティストサポートの詳細は
こちらをご覧ください。



◆◆◆◆ 2025年度ご支援いただいた皆さま ◆◆◆◆

<年間サポート>

【個人サポーター】

朝妻 幸雄 天野 雅子 M.I. 岩村 和央 K.U. 上村 憲裕 榎本 英二 Y.E. K.O. 大原 志津子 片山 由美子 K.K.
神田 尚子 北村 真 小林 真希子 R.K. 相良 延利 新貝 康司 鈴木 忠明 M.T. R.T. 武田 健二 伊達 朱実
田中 治郎 東條 Lilly K.T. トゥルーラブ 真智子 苫米地 英人 K.N. E.N. 児子 弥生 S.N. 長谷川 智子 A.H.
T.H. 橋口 美枝子 M.H. 平山 美由紀 藤野 盛臣 細沼 康子 M.H. 松尾 芳樹 E.M. K.M. 真野 美千代
三木谷 晴子 水野 靖彦 安田 牧子 山川 和子 山崎 明日香 横谷 雅子
(匿名希望 19名)

【法人サポーター】

三和プリンティング株式会社 株式会社 青林堂
三井住友カード株式会社 ロイヤルリゾート株式会社
株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント きづきアセット株式会社
株式会社ロジックアンドエモーション ライフプラン株式会社

<館野泉バースデープロジェクト「みんなで祝おう! 卒寿記念コンサート」>

天野 雅子 池戸 真理子 一柳 吉子 稲垣 美晴 えこ 上原 洋子 植村 月枝 岡村 茉利奈 木全 恵美子
CATHERINE CATES 久間 和子 久保 春代 坂井 和 佐々木 晃子 澤井 みのり スミ・ビ・スクール研究会 鈴木 早苗
高橋 理都子 田邊 英利子 照井 はるみ K.T. 中村 康江 日本シベリウス協会 橋本 利明 服部 喜恵子 林 幸仁 原田 君代
平山 美由紀 福田 誠 藤澤 ふさ子 真野 美千代 丸山 康 安田 牧子 湯本 早百合 H.W.
館野泉ファンクラブ 館野泉ファンクラブ九州 館野泉ファンクラブ北海道 タビオラの会
(匿名希望 4名)

【法人サポーター】

ミサワホーム株式会社 日本エルト株式会社
AGCグラスプロダクツ株式会社 三和シャッター工業株式会社 株式会社スルガ
DAIKEN株式会社 ニチハ株式会社 株式会社 LIXIL
エイベックス・クラシックス・インターナショナル株式会社 株式会社オクタヴィア・レコード ヤマハ株式会社

<ウィーン少年合唱団 オフタイム・サポート>

石坂 雅美 K.I. K.K. Y.K. 佐久間 隆弥 Rimiko N.S. 竹内 麻里子 中尾 圭吾 T.H. 橋口 美枝子 K.F.
細沼 康子 M.H. M.M. 水足 久美子 水足 秀一郎 口口コミ
(匿名希望 11名)

<ウィーン少年合唱団 ツアー・サポート>

江田 明子 T.O. K.K. 佐久間 隆弥 Rimiko M.T. 平山 美由紀 細沼 康子 M.M. 柳瀬 美佐子 口口コミ
(匿名希望 9名)

<千住真理子に「花を贈ろう!」プロジェクト>

石坂 雅美 北村 真 城戸 健二 桑原 仁志 小森 桂子 佐藤 亨 田中 治郎 H.H. 道又 利 村上 晃彦 横田 邦子
(匿名希望 7名)

2025年12月2日現在 敬称略

お知らせ

現在2025年度年間サポートを受付中です。詳細は、ジャパン・アーツの公式WEBサイトおよび公演チラシ挟み込みの申込用紙等をご覧ください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 TEL.03-3499-7720 (平日11:00~17:00 年末年始を除く)